

4. 健康・スポーツ科学科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
健康・スポーツ科学講義	講義	2	
健康・スポーツ科学実習 A	実習	1	
健康・スポーツ科学実習 B	実習	1	

※2022 年度開講予定種目

健康・スポーツ科学実習 A（Ⅰ期）

アルティメット、サッカー、スイミング、ソフトボール、太極拳、卓球、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケット、フィットネス、アダプテッド（集中：曜日時間の指定なし）

健康・スポーツ科学実習 B（Ⅱ期）

サッカー、ソフトボール、太極拳、卓球、ダンス、テニス、バドミントン、ゴルフ、バスケット、フィットネス、アダプテッド（集中：曜日時間の指定なし）、スキー（集中：2023 年 2 月を予定）

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

共通基礎科目（健康・スポーツ科学）には、「講義」と「実習（A・B）」の 2 種類の授業科目があり、法学部、情報学部及び工学部を除いて、計 4 単位が必修です（情報学部及び工学部は 2 単位必修、法学部は選択）。そのためには、「講義（2 単位）」1 コマと「実習（1 単位）」2 コマをそれぞれ履修しなければなりません。

(1) 「健康・スポーツ科学講義」の履修上の注意

「健康・スポーツ科学講義」（以下、「講義」という）は、授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する講義（担当教員）を第 3 希望まで登録します。受講者が定員を超える場合には、受講学生数に余裕のあるクラスに振り分けられます。「講義」は、講義期間中に講義室を移動して体育館などで体験学習、演習などが行われることもあります。講義内容は、担当教員によって異なりますので、シラバスと第 1 回目の授業で内容をよく確認してください。

単位の認定は、試験（あるいはレポート）によって行われます。

(2) 「健康・スポーツ科学実習 A・B」の履修上の注意

① 種目選択

「健康・スポーツ科学実習 A・B」（以下「実習」という）は授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する種目（担当教員）を第 3 希望まで登録します。受講希望者が各種目別の上限人数に達した場合には、抽選により種目が決定されます。第 3 希望までの種目に入らなかった場合には、[名古屋大学ポ](#)

[タルー教養教育院](#)のページに掲載される「受け入れ可能な種目」を確認し、指定された Web ページ（「履修手続きに関する注意事項」を参照）から曜日・時限・希望種目を申請してください。受け入れ許可の返信を受けた場合に名古屋大学ポータルから修正登録を行ってください。

病気、ケガ、心身の不調などで通常の種目の履修が困難である場合のためにアダプテッドという種目を開講しています（詳細はシラバスを参照のこと）。アダプテッドを希望する場合には登録前に担当教員へ連絡をとってください（連絡先は「履修手続きに関する注意事項」を参照）。担当教員との相談によって履修が決まった場合には、名古屋大学ポータルから修正登録を行うことになります。

② ガイダンス

第 1 回目の授業は決定した種目の実施場所でガイダンスを行いますので、必ず参加してください（状況に応じてオンデマンド・ガイダンスとなる可能性もあります）。I 期 1 年次のガイダンス時に実習カードを作成しますので、顔写真（縦 4cmX 横 3cm）と黒の油性ボールペンを持参してください（I 期に受講せず、II 期以降に初めて「実習」を受講する場合も同様です）。

③ 成績評価

各期に受講できる「実習」は原則 1 コマであり、担当教員により期ごとに出席・技能・態度等によって総合評価されます。

「実習」は、まず何よりも実践することが重要であり、したがって、休まずに授業に出席することが成績評価のための不可欠の条件です。

④ 特別受講

必修単位数を超えて「実習」の単位修得を希望する場合は、授業担当教員の許可を得た上で受講できます（必修受講の学生が定員を超える等の理由で受講が許可されない場合があります）。ただし、各期に受講できる「実習」は、上述のように原則 1 コマのみですので注意してください。その他の受講手続きは、必修での受講の場合と同様です。

⑤ 既往症、体調不良について

実習の授業に参加するにあたり、既往症や体調不良がある場合には、ガイダンス時あるいは各回の実習開始時に必ず教員に連絡してください。

⑥ 欠席の連絡

病気その他やむを得ない事情で欠席した、または欠席する時は、できるだけ速やかに（1 週間以内）、NUCT の「メッセージ」を利用して、担当教員（宛先を間違えないこと）に連絡してください。義務制ではありませんが、無連絡欠席は恣意的な欠席として処理されます。

なお、「名阪戦」、「国立七大学総合体育大会」および「東海地区国立大学体育大会」に参加するために欠席した場合、「実習」では欠席扱いにしないので、欠席を連絡する際にその旨を記載してください。

⑦ 授業で使用する運動・スポーツ施設

授業で使用する運動施設は、98 ページを参照してください。授業は選択した各自の種目に基づいて指定された場所で行われます。

⑧ 更衣

屋外種目の授業を受ける者は、山の上複合棟（男子）及びテニスコート管理棟（女子）の更衣室を使用してください。体育館で授業を受ける者は、体育館の更衣室を利用してください。荷物はロッカーを使用してください（100 円返却式）。更衣室は盗難防止のために授業開始時刻の 15 分前後に原則的に施錠します。

⑨ 貴重品

現金・携帯電話その他の貴重品は自己の責任で管理してください。盗難防止のためロッカーを施錠してください（100 円返却式）。

⑩ 服装

服装は、運動のできる、汚れてもよいものを着用してください。なお、テニスを受講する者は、テニスシューズを履いてください。また、体育館は、土足禁止であり、必ず体育館専用の靴を使用してください。

⑪ 雨天時等の連絡

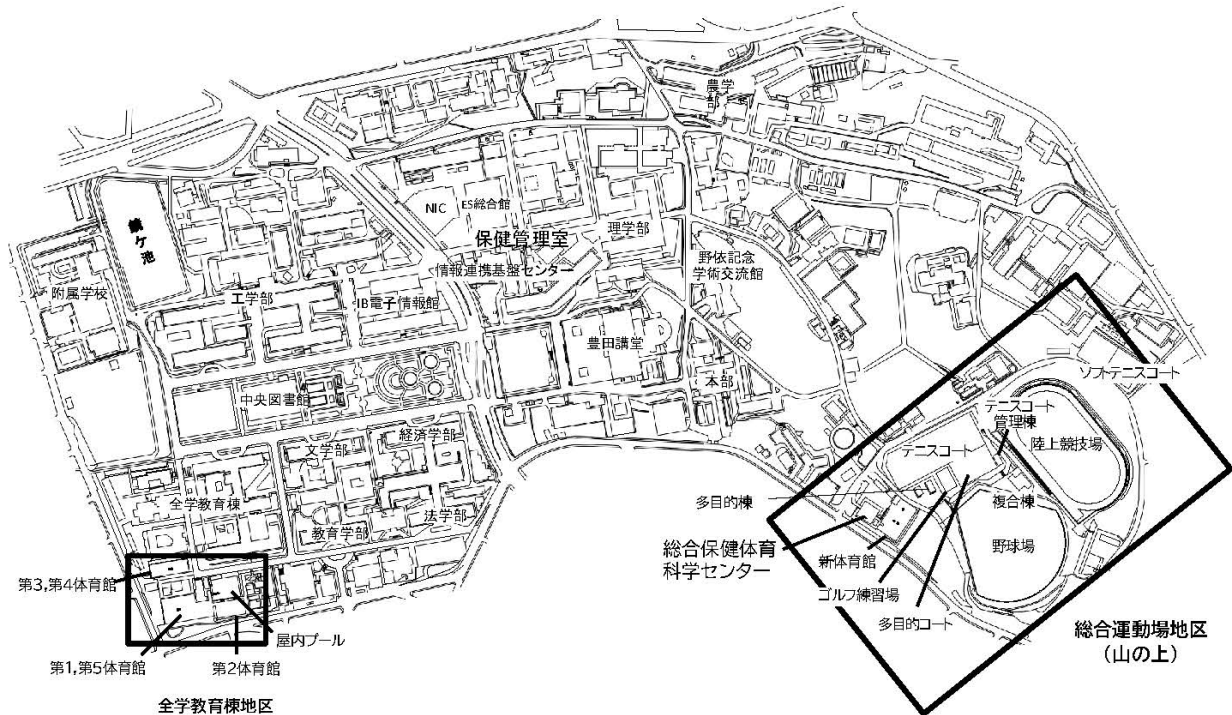
雨天時及びグラウンド状態不良時の授業場所は、第 1 体育館入口、山の上新体育館入口、複合棟前の掲示板に掲示並びに[教養教育院の公式 Twitter](#)（28 ページ参照）にて情報発信します。屋外で授業を受ける者は、グラウンド等の状態が良好でないことが予測される場合は、授業前に必ず連絡（Twitter・NUCT）を見てください。なにも連絡がないときには、平常どおり授業が行われます。休講についても同様に連絡されます。なお、各クラスでの連絡方法については第 1 回目授業時（ガイダンス）にて担当教員から説明があります。

⑫ 駐輪場

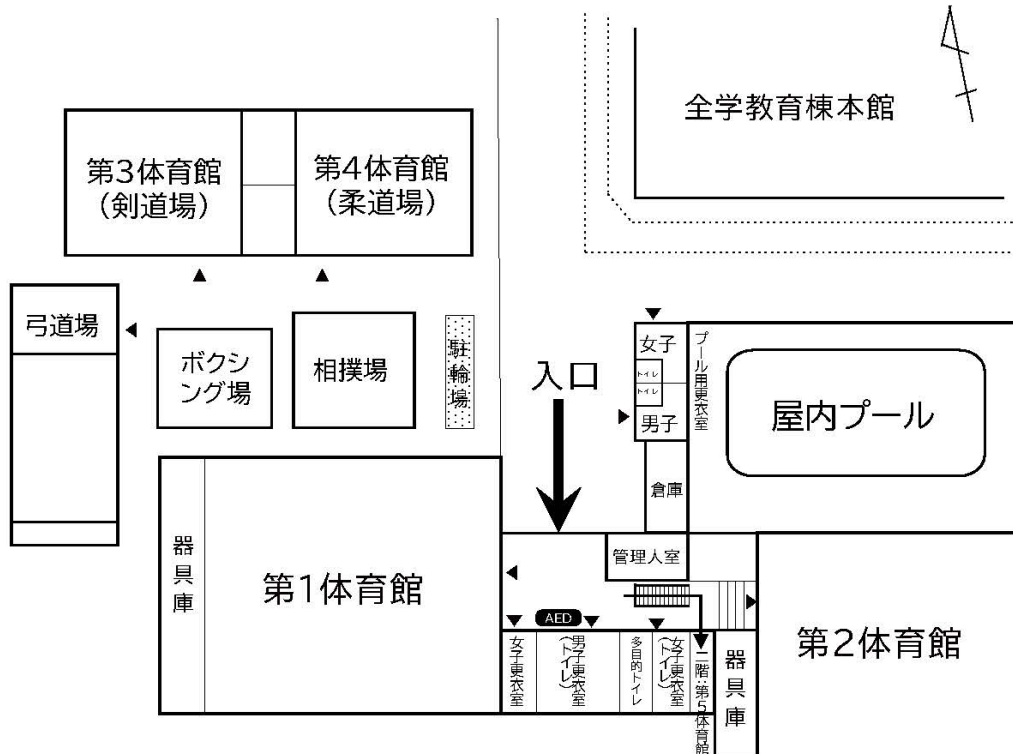
体育館前には、バイクや自転車の乗り入れや放置はせず、所定の駐輪場・バイク置き場に止めてください。なお、山の上総合運動場地区の野球場、新体育館方面の駐輪場は自転車専用であり、バイクの駐車は厳禁です。陸上競技方面の駐輪場は体育合宿所前にあり、自転車およびバイクが駐車できます。総合保健体育科学センター内の駐車場内への自動車、バイク、自転車の乗り入れは厳禁です。

近隣の住民から駐輪・駐車についての苦情が多数届いており、公道への駐輪・駐車は緊急車両や一般車両、歩行者の通行の妨げになります。自転車、バイク、自転車は公道には駐車・駐輪しないでください。駐車・駐輪禁止区域に止めていた場合には移動することがあります。

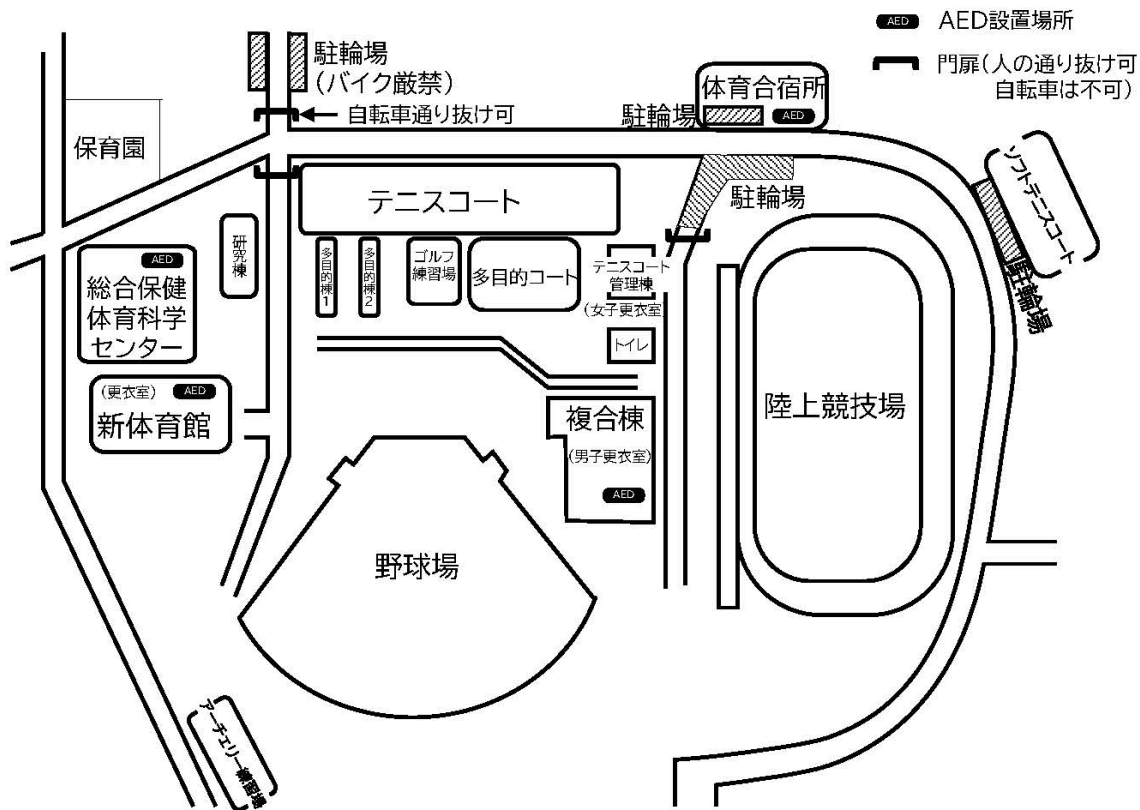
運動施設配置図



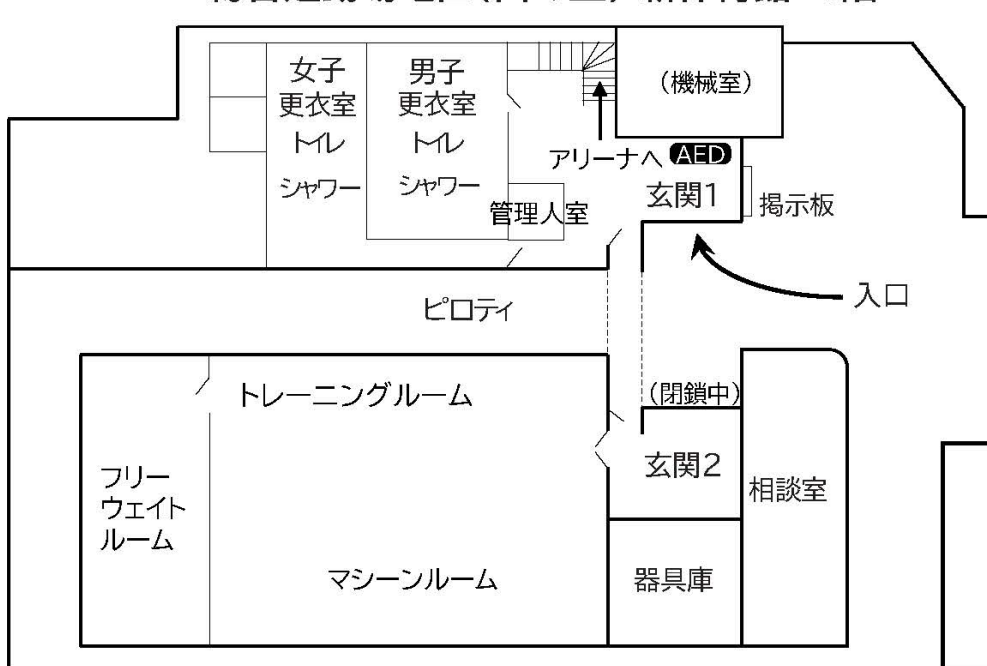
全学教育棟地区 体育館



総合運動場地区(山の上)運動施設配置図



総合運動場地区(山の上) 新体育館 1階



5. データ科学科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
データ科学基礎	講義	1	
データ科学基礎演習 A	演習	1	
データ科学基礎演習 B	演習	1	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

① 学部・学科別履修パターン

学部・学科	Ⅰ期（データ科学基礎）		Ⅱ期（データ科学基礎演習）	
	春 1 期	春 2 期	秋 1 期	秋 2 期
文学部		必修	演習 A（随意）	
教育学部		必修	演習 A（必修）	
法学部		選択必修	演習 A （他の科目と合せた 中から選択必修）	
経済学部		必修		演習 A（必修）
情報学部（人社）		必修	演習 A（随意）	
情報学部（自然・コン）		必修		演習 B（随意）
理学部		必修	演習 B（必修）	演習 B（必修）
医学部（医）		必修	※学生番号によって分かれる	
医学部（保）	必修			
工学部（化生・物工・エネ）	必修		演習 B（必修）	
工学部（マテ・電情・機航・土建）	必修			演習 B（必修）
農学部	必修		演習 B（必修）	

② 各科目の紹介

1) 「データ科学基礎」学部・学科別指定クラス，1 単位

全学部必修（法学部のみ選択必修），クォーターで実施する科目です。学部・学科等別に指定された授業を履修します。授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されます。

2) 「データ科学基礎演習 A」学部・学科別指定クラス，1 単位

Excel，R を使用した演習です。学部・学科等別に指定されたクラスを選択して履修登録します。

授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されますが，指定された授業時間内に直接質

問することもできます。

3) 「データ科学基礎演習 B」学部・学科別指定クラス, 1 単位

Python を使用した演習です。学部・学科等別に指定されたクラスを選択して履修登録します。

授業は, 講義室に集合せず, オンライン教材により実施されますが, 指定された授業時間内に直接質問することもできます。

③ 再履修

卒業に必要な単位を取得できなかった場合は, III 期に開講予定の同一名称の授業 (再履修クラス) を再度受講して単位を取得しなければなりません。1 学期に 2 つのクォーターで同一科目名の授業に参加することはできません (例: データ科学基礎演習 A を秋 1 期と秋 2 期の両方で履修など)。

④ 「データ科学基礎演習 A」と「データ科学基礎演習 B」の両方を履修したい場合

必修として指定されている科目以外の演習科目を履修する場合, 当該科目は随意科目になり, 卒業要件に算入されません。随意科目としての履修を希望する場合は, 他学部・他学科対象のクラスを選択し, 授業担当教員にメールにより許可を得てから, 履修登録の修正期間に科目を登録してください。

6. 国際理解科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
国際関係論	講 義	2	2 年次以上対象, 理学部のみ 1 年次以上対象
国際開発学	講 義	2	〃
グローバル化時代の国際社会	講 義	2	〃
国際学	講 義	2	〃
グローバル化と国際教育交流	講 義	2	〃
留学生と日本	講 義	2	〃
日本語教育実践入門	講 義	2	〃
囲碁と日本文化	講 義	2	〃
Biology in English	講 義	2	〃
英語・プレゼンテーション A1	講 義	2	1 年次以上対象
英語・プレゼンテーション A2	講 義	2	〃
英語・プレゼンテーション B1	講 義	2	〃
英語・プレゼンテーション B2	講 義	2	〃
フランス語・アカデミックライティング A	講 義	2	〃
フランス語・アカデミックライティング B	講 義	2	〃
Introduction to Intercultural Competence	講 義	2	〃
Immigration in Japan	講 義	2	〃
Studium Generale A	講 義	2	〃
Studium Generale B	講 義	2	〃
海外留学準備セミナー	講 義	2	〃
短期海外研修 A (北米)	演 習	2	〃
短期海外研修 B (北米)	演 習	2	〃
短期海外研修 C (欧州)	演 習	2	〃
短期海外研修 D (欧州)	演 習	2	〃
短期海外研修 E (アジア・オセアニア)	演 習	2	〃
短期海外研修 F (アジア・オセアニア)	演 習	2	〃
海外言語文化演習 (英語)	演 習	2	〃
海外言語文化演習 (ドイツ) 1	演 習	1	〃
海外言語文化演習 (ドイツ) 2	演 習	1	〃
海外言語文化演習 (フランス) 1	演 習	1	〃
海外言語文化演習 (フランス) 2	演 習	1	〃
海外言語文化演習 (中国) 1	演 習	1	〃
海外言語文化演習 (中国) 2	演 習	1	〃
EMI 科目	—	—	〃

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

国際理解科目は、海外留学・短期海外研修に関する科目が 1 年次から履修できます。そのほかの科目は 2 年次からの履修になります。

理学部 1 年次生は、指定された時間割で、2 年次以上対象の科目を履修することができます。詳しくは履修登録の際に[名古屋大学ポータル](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

(1) 「短期海外研修 A～F」

短期海外研修の説明会は春学期 4 月，秋学期 10 月に開催します。参加希望者は説明会に出席し，担当教員と個別面談をした後，履修登録が可能です。説明会の日程，各研修の詳細は海外留学室のホームページで確認してください

http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/abroad/program/nu_oti.html

(2) 「海外言語文化演習（英語）」（秋学期開講予定）

海外協定大学が提供する語学研修プログラムに参加して語学力を向上させ，帰国後にプレゼンテーションを行うことで単位が認定されます。

(3) 「海外言語文化演習（ドイツ）」（秋学期開講予定）

- ① 学部指定はありませんが，言語文化科目のドイツ語を半年以上学んだ学生のみ受講できます。
- ② 「海外言語文化演習（ドイツ）1」は，「海外言語文化演習（ドイツ）2」（フライブルク大学での短期ドイツ語研修プログラム）に参加を希望する学生の受講が優先されます。
- ③ 「海外言語文化演習（ドイツ）1」を履修しない場合は，「海外言語文化演習（ドイツ）2」の単位認定はされません。

(4) 「海外言語文化演習（フランス）」（秋学期開講予定）

- ① 学部指定はありません。
- ② 「海外言語文化演習（フランス）1」は，「海外言語文化演習（フランス）2」（ストラスブール大学での短期フランス語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが，「海外言語文化演習（フランス）2」に参加しない学生の受講も可能です。
- ③ 「海外言語文化演習（フランス）2」への参加には，本年度春学期までの言語文化科目のフランス語科目の規定の単位をすべて修得している必要があります。
- ④ 「海外言語文化演習（フランス）1」を履修しない場合は，「海外言語文化演習（フランス）2」の単位認定はされません。

(5) 「海外言語文化演習（中国）」（春学期開講予定）

- ① 学部指定はありません。
- ② 「海外言語文化演習（中国）1」は，「海外言語文化演習（中国）2」（同済大学での短期中国語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが，「海外言語文化演習（中国）2」に参加しない学生の受講も可能です。
- ③ 「海外言語文化演習（中国）1」を履修しない場合は，「海外言語文化演習（中国）2」の単位認定はされません。

(6) 「EMI 科目」

国際プログラム群向けに英語により開講される科目を履修し，単位を修得した場合，国際理解科目の単位として認定されます。対象科目の詳細や履修登録方法は，[名古屋大学ポータル](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

7. 現代教養科目

(1) 人文・社会系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
哲学・思想入門	講 義	2	2 年次以上対象，理学部のみ 1 年次以上対象
歴史学入門	講 義	2	〃
言語学入門	講 義	2	〃
文化・芸術学入門	講 義	2	〃
社会学入門	講 義	2	〃
心理学入門	講 義	2	〃
現代社会と教育	講 義	2	〃
日本国憲法	講 義	2	〃
法学入門	講 義	2	〃
政治学入門	講 義	2	〃
経済概論	講 義	2	〃
経営・会計入門	講 義	2	〃

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は，教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（人文・社会系）は，理系学部（情報学部〔自然情報学科，コンピュータ科学科〕，理学部，医学部，工学部，農学部）を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業単位として認められません。2 年次以上を対象にしています。

理学部 1 年次生は，指定された時間割で，2 年次以上対象の科目を履修することができます。詳しくは履修登録の際に[名古屋大学ポータル](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

(2) 自然系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
物理学入門	講 義	2	2 年次以上対象
化学入門	講 義	2	〃
材料科学入門	講 義	2	〃
生命科学入門 A	講 義	2	〃
生命科学入門 B	講 義	2	〃
地球惑星科学入門	講 義	2	〃
大気水圏科学入門	講 義	2	〃
現代医学入門	講 義	2	〃
現代数学入門	講 義	2	〃
放射線と放射能	講 義	2	〃

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（自然系）は、文系学部（文学部，教育学部，法学部，経済学部，情報学部〔人間・社会情報学科〕）を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業要件単位として認められません。2 年次以上を対象にしています。

(3) 学際・融合系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
芸術論 A	講 義	2	2 年次以上対象, 理学部のみ 1 年次以上対象
芸術論 B	講 義	2	〃
文化論・芸術論	講 義	2	〃
環境学入門	講 義	2	〃 (一部クラスは 3 年次以上対象)
大学でどう生きるか	講 義	2	2 年次以上対象, 理学部のみ 1 年次以上対象
青年期における心の健康	講 義	2	〃
クリエイティブイノベーション講座	講 義	2	〃
キャリア形成論	講 義	2	〃
メディアリテラシー	講 義	2	〃
社会安全学	講 義	2	〃
ジェンダー学	講 義	2	〃
学問の面白さを知る	講 義	2	〃
名古屋大学の歴史	講 義	2	〃
防災減災学	講 義	2	〃
博物館概論	講 義	2	〃
科学論・技術論	講 義	2	〃
科学史・技術史	講 義	2	3 年次以上対象
科学・技術の倫理	講 義	2	〃

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（学際・融合系）は、全学部を対象としています。2 年次以上を対象としています。

理学部 1 年次生は、指定された時間割で、2 年次以上対象の科目を履修することができます。詳しくは履修登録の際に「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

一部の科目は、3 年次以上を対象にしています。

8. 超学部セミナー

〔授業科目表〕

開講する授業科目は毎年 3 月頃、[名古屋大学ポータル](#)に掲載します。

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>

〔履修に関する注意事項〕

超学部セミナーは、全学部の 3 年次以上を対象としています。履修登録方法は「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

9. 人文・社会系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
哲学	講 義	2	
歴史学	講 義	2	
文学	講 義	2	
地理学	講 義	2	
社会学	講 義	2	
心理学	講 義	2	
比較文化論	講 義	2	
宗教学・文化人類学	講 義	2	
アーカイブズ学	講 義	2	
教育学	講 義	2	
比較教育学	講 義	2	
高等教育学	講 義	2	
日本国憲法	講 義	2	★
法学	講 義	2	★
政治学	講 義	2	★
経済学	講 義	2	
経営・会計	講 義	2	
統計学	講 義	2	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

人文・社会系基礎科目は、文系学部（文学部，教育学部，法学部，経済学部，情報学部〔人間・社会情報学科〕）を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業要件単位として認められません。

法学部の学生は，★の科目を履修しても卒業要件単位として認められません。

10. 自然系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
微分積分学Ⅰ	講 義	2	情報学部, 理学部, 工学部, 農学部
微分積分学Ⅱ	講 義	2	〃
線形代数学Ⅰ	講 義	2	〃
線形代数学Ⅱ	講 義	2	〃
複素関数論	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 工学部
数学通論Ⅰ	講 義	2	医学部
数学通論Ⅱ	講 義	2	〃
力学Ⅰ	講 義	2	工学部
力学Ⅱ	講 義	2	〃
電磁気学Ⅰ	講 義	2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部
電磁気学Ⅱ	講 義	2	〃
物理学基礎Ⅰ	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
物理学基礎Ⅱ	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部 (物理学科を志望する学生を除く。), 医学部, 農学部 医学部,
物理学実験	実 験	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
化学基礎Ⅰ	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 工学部, 農学部
化学基礎Ⅱ	講 義	2	情報学部 (自然), 理学部, 工学部, 農学部
化学実験	実 験	2	情報学部 (自然), 理学部, 工学部, 農学部 情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
生物学基礎Ⅰ	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
生物学基礎Ⅱ	講 義	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (保), 農学部
生物学実験	実 験	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (保), 農学部
地球科学基礎Ⅰ	講 義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 農学部
地球科学基礎Ⅱ	講 義	2	情報学部 (自然), 理学部, 農学部
地球科学実験	実 験	2	〃
数学特別講義	講 義	—	全学部 (英語による講義)・随意科目

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

- (1) 対象学部 (学科) 以外の学生が履修しても卒業要件単位として認められません。
- (2) 医学部保健学科向けの物理学基礎Ⅰ及び化学基礎Ⅰは、「授業時間割表」等では、物理学基礎Ⅰ〔総合〕, 化学基礎Ⅰ〔総合〕と表記されています。保健学科の学生はこれらを履修すれば卒業要件単位として認められます。
- (3) 医学部保健学科以外の学生が物理学基礎Ⅰ〔総合〕及び化学基礎Ⅰ〔総合〕を履修しても卒業要件単位として認められません。
- (4) 「力学Ⅰ」または「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」は授業内容が重複しています。したがって、「力学Ⅰ」または「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。同様に、「電磁気学Ⅰ」または「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」は授業内容が重複していますので、「電磁気学Ⅰ」または「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。
- (5) 「数学特別講義」は随意科目であり、卒業要件単位として認められません。

11. 東海国立大学機構設置による新たな取組

国立大学法人名古屋大学と同岐阜大学は、2020年4月から法人統合により東海国立大学機構（以下「機構」という。）の元に設置されました。（詳細は、<https://www.thers.ac.jp/index.html> で確認してください。）

教育分野においては、名古屋大学と岐阜大学との間で共同できる取組を進める組織として「アカデミック・セントラル」を設け、国際通用性のある質の高い教育を実践し、東海地域をはじめ、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなりうる人材を育成することを目指します。当面の取組として、リベラル・アーツ教育のより一層の充実、ICTなどの新しい技術を活用した次世代型教育の導入を進めています。

教養教育院では、遠隔講義システムを活用した授業や学外で行う授業などにおいて、両大学の学生が共に参加して行う授業を提供します。また、岐阜大学の授業を履修して単位を取得すれば、名古屋大学の授業として単位を認定できる単位互換制度を2022年度から実施します。

さらに、海外短期研修プログラム等特色ある科目を共同実施していくことも予定しています。

(1) 共同実施科目（2022年度）

「健康・スポーツ科学実習B（スキー）」

スキーの技術習得を通じて冬の自然に親しむとともに、雪上を自由に滑走できるためのスキルを身につけること、および、生涯スポーツの一つとして卒業後も楽しむことができるための基礎づくりをすることを目的とします。さらに合宿生活を通じて学生間のコミュニケーションを図ることや集団生活におけるルールやマナー遵守を実践することも目的の一つです。

「Studium GeneraleA,B」

ヨーロッパで800年の伝統を持つ「開かれた大学」の理念に基づいた講義を英語で体験してもらうことが狙いです。学内留学の気分が味わえます。毎回異なったトピックについて学内外からの講師が講義します。

「超学部セミナー（Summer Camp）」

学部3年生以上を対象に、夏休み（9月）に集中講義として実施します。留学生と日本人学生、学部生と大学院生、名古屋大学学生と岐阜大学学生が、英語だけを使って3泊の合宿をともに体験します。年齢、国籍、所属大学、専門分野を超えたグループをつくって、さまざまな活動に取り組むことを通じて、論理的思考力、コミュニケーション力、チームビルディングに必要なスキルを身につけ、自主学習への意欲と国際性を涵養します。

(2) 単位互換科目（2022年度）

以下の岐阜大学の科目を履修した場合、名古屋大学の履修科目として単位を認定します。

○岐阜大学全学共通教育科目

- ① 教養科目・岐阜学科目「現代社会とボランティア・地域活動」（2単位、前及び後学期）、各10名
- ② 教養科目・岐阜学科目「フューチャーセンター入門」（2単位、前及び後学期）、各10名

※ 名古屋大学読替科目

現代教養科目・学際融合系「環境学入門」（2単位）

○名古屋大学全学教育科目

- ① 理系教養科目「都市と環境」(2単位, 春学期), 10名
- ② 全学教養科目「特別講義(目指せソーシャルビジネス起業)」(2単位, 春学期), 制限なし
- ③ 共通基礎科目「基礎セミナー(時事問題で学ぶファシリテーション)」(2単位, 春学期・夏期集中), 8名(予定)
- ④ 全学教養科目「特別講義(PBLマーケティング)」(2単位, 春学期・夏期集中), 8名(予定)

※ 岐阜大学振替科目

- ① 自然科学科目(環境学分野)
- ② 社会科学科目(経営学分野)
- ③ 社会科学科目(社会学分野)
- ④ 社会科学科目(経営学分野)

(3) 履修の仕方

履修登録時に[名古屋大学ポータル](#)に詳細を掲載します。

1. 全学教育科目規程

制定 平成 16 年 4 月 1 日

名古屋大学全学教育科目規程

(趣旨)

第1条 この規程は、名古屋大学通則（平成 16 年度通則第 1 号。以下「通則」という。）第 19 条第 7 項、第 20 条第 2 項、第 21 条第 6 項並びに第 23 条の 2 第 1 項及び第 3 項の規定に基づき、名古屋大学全学教育科目（以下「全学教育科目」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目区分及び内容)

第2条 全学教育科目の科目区分及び内容は、次のとおりとする。

科目区分	内容	
共通基礎科目	「自立した主体的学び」へと学習姿勢を転換し、よりよい未来社会を構築しそれを担う「勇気ある知識人」となるために、すべての学生が専門分野によらず共通に身につけるべき基礎的素養（汎用力・課題発見／解決力）を育む	
「大学での学び」基礎論	大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成する	
基礎セミナー	少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを通じて、真理探究の面白さに触れるとともに、主体的な学びに必須の「調べ、考え、書き、話す」能力を涵養する	
言語文化科目	英語	学問の世界の共通言語、かつ国際社会で活躍するために必須の言語である英語によるコミュニケーション能力を高め、世界に通ずる窓を開く
	初修外国語	英語以外の外国語の学修を通して、多様な異文化に対する理解と寛容性を身につけ、国境を越えてよりよい未来社会の構築をめざして協同するために必須の複数外国語運用能力の基礎を築く
	日本語	日本語の能力を高め、日本の文化と社会に対する理解を深めることにより、留学生活における主体的学びのための基礎能力を身につける
健康・スポーツ科学科目	講義	健康に関する知識と自己管理能力及び運動・スポーツ習慣の必要性など、生涯スポーツの基礎となる知識を習得する
	実習	スポーツの実践を通して、運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣獲得の基礎となる技能、コミュニケーション能力とリーダーシップ、チームワーク形成能力を身につける
データ科学科目	社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能を獲得する	

教養科目	教養ある「勇氣ある知識人」として専門知を人類社会の問題解決に活用し幸福な未来を構築していく。そのために重要な資質である「異分野・異文化に開かれた態度」「分野を超えた幅広い知識への関心」及び「自己とその専門分野を相対化する視点」を獲得する	
国際理解科目	「異文化との出会い」を契機に、世界には多様な価値観があることを認識し、近現代の国際関係に関する知識と事項の文化に関する知識を身につける。これを通じて、自らの主張を展開する力と文化的社会的な寛容性とを兼ね備えた、国際社会で活躍しうる人間に成長するための基礎を築く	
現代教養科目	人文・社会系	現代社会が抱える課題の理解を踏まえ、その課題に対する学際的・総合的分析能力を養うとともに、目指す専門分野と他分野との関連性を理解することによって、専門知の社会的役割を認識し、自らの専門分野を相対化する視点を身につける
	自然系	
	学際・融合系	
超学部セミナー	自らの目指す専門性が自覚された学部 3～4 年次において、異なる分野を学ぶ学生が学部・学年を超えたチームを組み、自主的に設定した課題の解決のためにみんなで考え力を合わせる主体的経験を共有する。これを通じ、リーダーシップとチームワーク、異分野への開かれた態度、多様な人々の協調による課題解決能力を身につける	
分野別基礎科目	専門分野の学習の基盤となる最も基礎的な知識と技能を身につける	
人文・社会系基礎科目	人文・社会科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける	
自然系基礎科目	自然科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける	

（授業科目及び単位数）

第3条 全学教育科目の授業科目、単位数等は、別表のとおりとする。

- 2 全学教育科目の授業科目は、前項に規定するもののほか、臨時に開設することができる。
- 3 前項の授業科目、単位数等は、開設の都度、別に定める。

（単位の計算）

第4条 全学教育科目の授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- 一 講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 実験及び実習は、30 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

（履修年次）

第5条 全学教育科目の履修年次は、学部において定める。

（履修要件）

第6条 全学教育科目の履修要件は、学部規程の定めるところによる。

（履修手続）

第7条 学生は、毎学期、指定の期日までに履修しようとする授業科目について、授業担当教員の承認を得

て、所属の学部長に届け出なければならない。

- 2 履修の届出ができる単位数の上限及び履修の届出ができる単位数に算入しない授業科目については、学部規程の定めるところによる。

（単位の認定）

- 第8条** 授業科目の履修に係る単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験等（以下「試験等」という。）によるもののほか、総合的に成績評価し、合格した者には、所定の単位を与える。
- 2 実験及び実習については、前項の規定にかかわらず、平常の成績をもって成績評価することができる。
 - 3 試験等を受けることのできる授業科目は、前条の規定による手続を経て授業を受けたものに限る。

（追試験）

- 第9条** 学期末試験を受けることのできなかった者は、やむを得ない理由がある場合に限り、追試験を受けることができる。
- 2 追試験を受けようとする者は、学期末試験終了後、指定の期日までに、所定の願書に次の書類を添え、教養教育院長に願い出て、その許可を受けなければならない。
 - 一 傷病により学期末試験を受けることのできなかった者は、医師の診断書
 - 二 その他やむを得ない理由により学期末試験を受けることのできなかった者は、その証明書

（再試験）

- 第10条** 学期末試験又は追試験を受け不合格となった授業科目のある者は、教養教育院が別に定めるところにより、当該授業科目について再試験を受けることができる。
- 2 再試験の成績評価は、C-又はFとする。ただし、この区分により難しいものについては、P又はNPとする。

（成績評価）

- 第11条** 成績評価は、名古屋大学における成績評価及びGPA制度に関する規程（令和元年度規程第68号）の定めるところによる。

（検定試験の成績の取扱い）

- 第12条** 通則第23条の2の規定に基づく検定試験は、次のとおりとする。
- 一 実用英語技能検定
 - 二 技術英語能力検定
 - 三 国際連合公用語英語検定試験
 - 四 Test of English as a Foreign Language
 - 五 Test of English for International Communication
 - 六 ケンブリッジ大学英語能力検定試験
 - 七 International English Language Testing System
 - 八 ゲーテ・ドイツ語検定試験
 - 九 ドイツ語技能検定試験
 - 十 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験
 - 十一 DELF DALF
 - 十二 実用フランス語技能検定試験
 - 十三 ロシア語検定試験
 - 十四 ロシア語能力検定試験
 - 十五 中国語検定試験
 - 十六 漢語水平考試（HSK）
 - 十七 DELE

- 十八 スペイン語技能検定
 十九 韓国語能力試験
 二十 「ハングル」能力検定試験
 二十一 日本語能力試験

2 前項の単位の認定は、本学の単位認定審査に合格した者に行う。ただし、前項第 8 号から第 20 号までに規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生以外の学生を対象とし、前項第 21 号に規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生のみを対象とする。

3 第 1 項の検定試験により与えることのできる認定可能単位数及び認定対象授業科目は、次のとおりとする。

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化科目「英語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
実用英語技能検定 技術英語能力検定 国際連合公用語英語検定試験 Test of English as a Foreign Language TOEFL iBT テスト (TOEFL Internet-based Test) を受験した者 Test of English for International Communication Listening & Reading Test を受験した者 ケンブリッジ大学英語能力検定試験 International English Language Testing System	1 級 プロフェッショナル 特 A 級, A 級 88 点以上 787 点以上 CPE, CAE 7.0 以上	2 単位	英語 (基礎) 英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化科目「初修外国語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
ゲーテ・ドイツ語検定試験	A1	4 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成
	A2, B1～C2	6 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級 1～2, ドイツ語中級
ドイツ語技能検定試験	4 級	4 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成
	3 級～1 級	6 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級 1～2, ドイツ語中級
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A1	4 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成
	A2, B1～C2	6 単位	ドイツ語基礎 1～2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級 1～2, ドイツ語中級
DELTA DALF	DELTA A2	4 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
	DELTA B1～B2, DALF C1, C2	6 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成

実用フランス語技能検定試験	3 級	4 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
	準 2 級～1 級	6 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
ロシア語検定試験	入門レベル	4 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
	基礎レベル, 第 1 ～第 4 レベル	6 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
ロシア語能力検定試験	4 級	4 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
	3 級～1 級	6 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
中国語検定試験	4 級	4 単位	中国語基礎 1～2, 中国語初級完成
	3 級～1 級	6 単位	中国語基礎 1～2, 中国語初級完成
漢語水平考試 (HSK)	4 級	4 単位	中国語基礎 1～2, 中国語初級完成
	5 級～6 級	6 単位	中国語基礎 1～2, 中国語初級完成
DELE	DELE A1	4 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
	DELE A2, B1～C2	6 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
スペイン語技能検定	5 級	4 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
	4 級～1 級	4 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
韓国語能力試験	2 級	6 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
	3 級～6 級	4 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
「ハングル」能力検定試験	4 級	6 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
	3 級～1 級	4 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
		6 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成

検定試験の種類	レベル	言語文化「日本語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
日本語能力試験	N1, N2 レベル	6 単位	日本語 1, 日本語表記 1 (漢字 200)

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、全学教育科目に関し必要な事項は、教育分科会の議を経て、総長が定める。

別表(第3条関係)

区分		授 業 科 目		単 位	備 考		
共通基礎科目	「大学での学び」基礎論	「大学での学び」基礎論		1			
		基礎セミナー		2			
		基礎セミナーA		2	医学部医学科を対象		
		基礎セミナーB		2	医学部医学科を対象		
	言語文化科目	英語	英語（サバイバル）		1	ただし、当該科目は随意科目の単位として扱い、卒業に必要な単位に認定しない。	
			英語（基礎）		2		
			英語（中級）		2		
			英語（コミュニケーション）		2		
			英語（上級）		2		
			英語（セミナー）		2		
			英語（上級リーディング）1		1		
			英語（上級リーディング）2		1		
			特別英語セミナー（資格試験英語）		2		
			特別英語セミナー（A 類）		2		
			特別英語セミナー（B 類）		2		
			特別英語セミナー（C 類）		2		
			英語（上級）1		2	国際プログラム群学生を対象	
			英語（上級）2		2	国際プログラム群学生を対象	
			英語（上級）3		2	国際プログラム群学生を対象	
			初修外国語	多言語修得基礎		1	
				ドイツ語基礎 1		2	
				ドイツ語基礎 2		2	
		ドイツ語初級完成		2			
		ドイツ語中級 1		2			
		ドイツ語中級 2		2			
		ドイツ語中級		2			
		ドイツ語上級		2			
		フランス語基礎 1		2			
		フランス語基礎 2		2			
		フランス語初級完成		2			
		フランス語中級 1		2			
		フランス語中級 2		2			
		フランス語中級		2			
フランス語上級		2					
ロシア語基礎 1		2					
ロシア語基礎 2		2					
ロシア語初級完成		2					
ロシア語中級 1		2					
ロシア語中級 2		2					
ロシア語中級		2					
ロシア語上級		2					
中国語基礎 1		2					
中国語基礎 2		2					

			中国語初級完成	2	
			中国語中級 1	2	
			中国語中級 2	2	
			中国語中級	2	
			中国語上級	2	
			スペイン語基礎 1	2	
			スペイン語基礎 2	2	
			スペイン語初級完成	2	
			スペイン語中級 1	2	
			スペイン語中級 2	2	
			スペイン語中級	2	
			スペイン語上級	2	
			朝鮮・韓国語基礎 1	2	
			朝鮮・韓国語基礎 2	2	
			朝鮮・韓国語初級完成	2	
			朝鮮・韓国語中級 1	2	
			朝鮮・韓国語中級 2	2	
			朝鮮・韓国語中級	2	
			朝鮮・韓国語上級	2	
			イタリア語基礎 1	2	
			イタリア語基礎 2	2	
			ポルトガル語基礎 1	2	
			ポルトガル語基礎 2	2	
		日本語	日本語文章表現法	2	外国人留学生を対象
			日本語口頭表現法	2	外国人留学生を対象
			多文化コミュニケーション論	2	外国人留学生を対象
			日本語総合演習 1	2	外国人留学生を対象
			日本語総合演習 2	2	外国人留学生を対象
			レポート・論文作成法	2	
			日本語 1	4	国際プログラム群学生を対象
			日本語 2	4	国際プログラム群学生を対象
			日本語 3	2	国際プログラム群学生を対象
			日本語 4	2	国際プログラム群学生を対象
			日本語 5	2	国際プログラム群学生を対象
			日本語 6	2	国際プログラム群学生を対象
			日本語表記 1 (漢字 200)	2	国際プログラム群学生を対象
			日本語表記 2 (漢字 400)	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 1A	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 2A	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 3A	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 4A	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 1B	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 2B	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 3B	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 4B	2	国際プログラム群学生を対象
			アカデミック日本語 5 (漢字 2200)	2	国際プログラム群学生を対象
			ビジネス日本語 1	2	国際プログラム群学生を対象

教養科目			ビジネス日本語 2	2	国際プログラム群学生を対象
			ビジネス日本語 3	2	国際プログラム群学生を対象
			ビジネス日本語 4	2	国際プログラム群学生を対象
	健康・スポーツ科学科目	講義	健康・スポーツ科学講義	2	
		実習	健康・スポーツ科学実習 A	1	
			健康・スポーツ科学実習 B	1	
	データ科学科目	講義	データ科学基礎	1	
		演習	データ科学基礎演習 A	1	
			データ科学基礎演習 B	1	
	国際理解科目		国際関係論	2	
			国際開発学	2	
			グローバル化時代の国際社会	2	
			国際学	2	
			グローバル化と国際教育交流	2	
			留学生と日本	2	
			日本語教育実践入門	2	
			囲碁と日本文化	2	
			Studium Generale A	2	
			Studium Generale B	2	
			Biology in English	2	
			英語・プレゼンテーション A1	2	
			英語・プレゼンテーション A2	2	
			英語・プレゼンテーション B1	2	
			英語・プレゼンテーション B2	2	
			フランス語・アカデミックライティング A	2	
			フランス語・アカデミックライティング B	2	
			Introduction to Intercultural Competence	2	
			Immigration in Japan	2	
			海外留学準備セミナー	2	
			短期海外研修 A (北米)	2	
			短期海外研修 B (北米)	2	
			短期海外研修 C (欧州)	2	
			短期海外研修 D (欧州)	2	
			短期海外研修 E (アジア・オセアニア)	2	
			短期海外研修 F (アジア・オセアニア)	2	
			海外言語文化演習 (英語)	2	
			海外言語文化演習 (ドイツ) 1	1	
			海外言語文化演習 (ドイツ) 2	1	
			海外言語文化演習 (フランス) 1	1	
			海外言語文化演習 (フランス) 2	1	
			海外言語文化演習 (中国) 1	1	
			海外言語文化演習 (中国) 2	1	
			EMI 科目		
	現代教養科目	人文	哲学・思想入門	2	
			歴史学入門	2	

		・社会系	言語学入門	2	
			文化・芸術学入門	2	
			社会学入門	2	
			心理学入門	2	
			現代社会と教育	2	
			日本国憲法	2	
			法学入門	2	
			政治学入門	2	
			経済概論	2	
			経営・会計入門	2	
		自然系	物理学入門	2	
			化学入門	2	
			材料科学入門	2	
			生命科学入門 A	2	
			生命科学入門 B	2	
			地球惑星科学入門	2	
			大気水圏科学入門	2	
			現代医学入門	2	
			現代数学入門	2	
			放射線と放射能	2	
			物質と科学	2	国際プログラム群学生を対象
			学際・融合系	芸術論 A	2
		芸術論 B		2	
		文化論・芸術論		2	
		環境学入門		2	
		大学でどう生きるか		2	
		青年期における心の健康		2	
		クリエイティブイノベーション講座		2	
		キャリア形成論		2	
		メディアリテラシー		2	
		社会安全学		2	
		ジェンダー学		2	
			学問の面白さを知る	2	
	名古屋大学の歴史		2		
	防災減災学		2		
	博物館概論		2		
	科学論・技術論		2		
	科学史・技術史		2		
	科学・技術の倫理		2		
	バイオテクノロジー	2	国際プログラム群学生を対象		
	超学部セミナー	超学部セミナー			

分野別基礎科目	人文・社会系基礎科目	哲学	2	
		歴史学	2	
		文学	2	
		地理学	2	
		社会学	2	
		心理学	2	

		比較文化論	2	
		宗教学・文化人類学	2	
		アーカイブズ学	2	
		教育学	2	
		比較教育論	2	
		高等教育学	2	
		日本国憲法	2	
		法学	2	
		政治学	2	
		経済学	2	
		経営・会計	2	
		統計学	2	
		研究方法論	2	国際プログラム群学生を対象
	自然系基礎科目	微分積分学Ⅰ	2	
		微分積分学Ⅱ	2	
		線形代数学Ⅰ	2	
		線形代数学Ⅱ	2	
		複素関数論	2	
		数学通論Ⅰ	2	
		数学通論Ⅱ	2	
		リメディアル数学	2	国際プログラム群学生を対象 ただし、当該科目は随意科目の単位として扱い、卒業に必要な単位に認定しない。
		数学特別講義		ただし、当該科目は随意科目の単位として扱い、卒業に必要な単位に認定しない。
		力学Ⅰ	2	
		力学Ⅱ	2	
		電磁気学Ⅰ	2	
		電磁気学Ⅱ	2	
		物理学基礎Ⅰ	2	
		物理学基礎Ⅱ	2	
		物理学基礎Ⅲ	2	国際プログラム群学生を対象
		物理学実験	2	
		化学基礎Ⅰ	2	
		化学基礎Ⅱ	2	
		化学実験	2	
		生物学基礎Ⅰ	2	
		生物学基礎Ⅱ	2	
		生物学実験	2	
		地球科学基礎Ⅰ	2	
		地球科学基礎Ⅱ	2	
		地球科学実験	2	

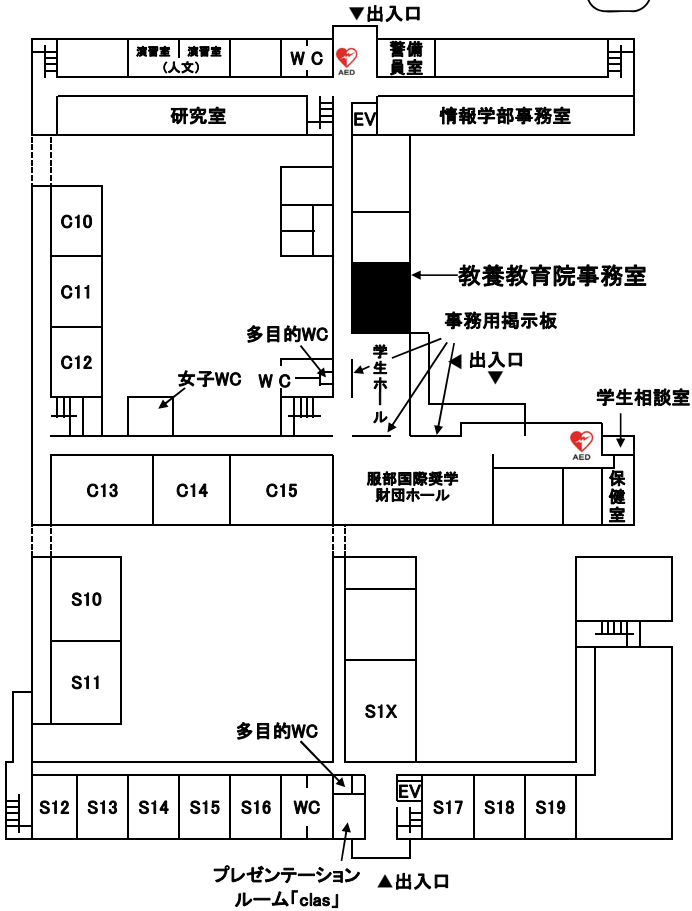
(注) 国際理解科目の EMI 科目、超学部セミナー、自然系基礎科目の数学特別講義に係る授業科目及び単位数等及び健康・スポーツ科学実習 A 及び B に係る授業科目は、教養教育院統括会議が別に定める。

2. 全学教育棟などの講義室配置図

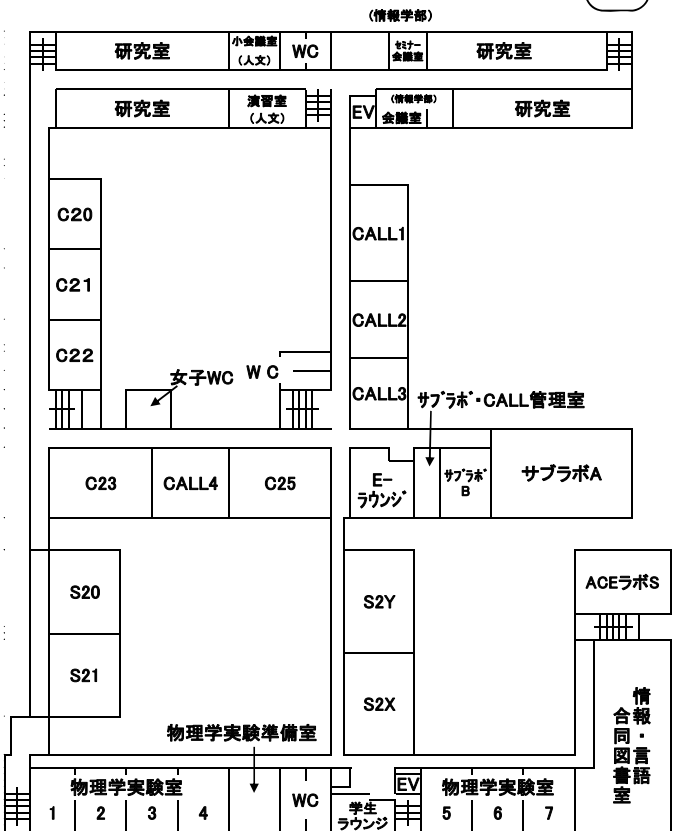
＜全学教育棟本館(情報学部)＞



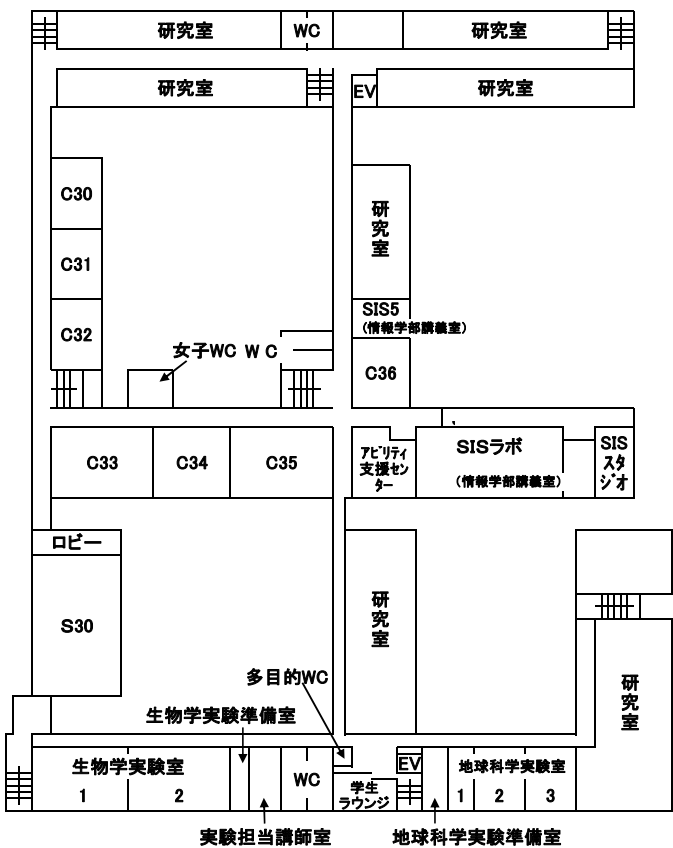
1階



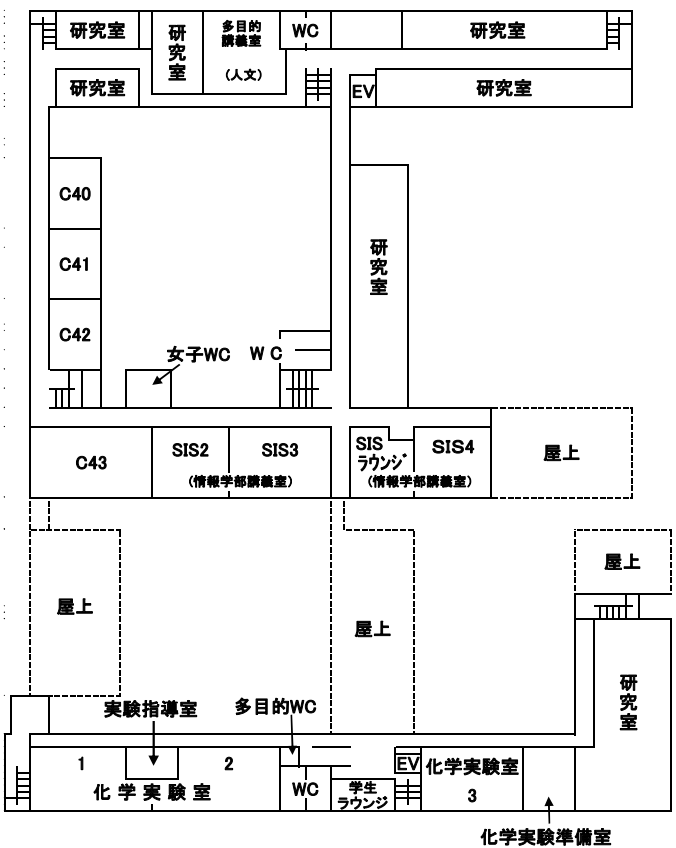
2階



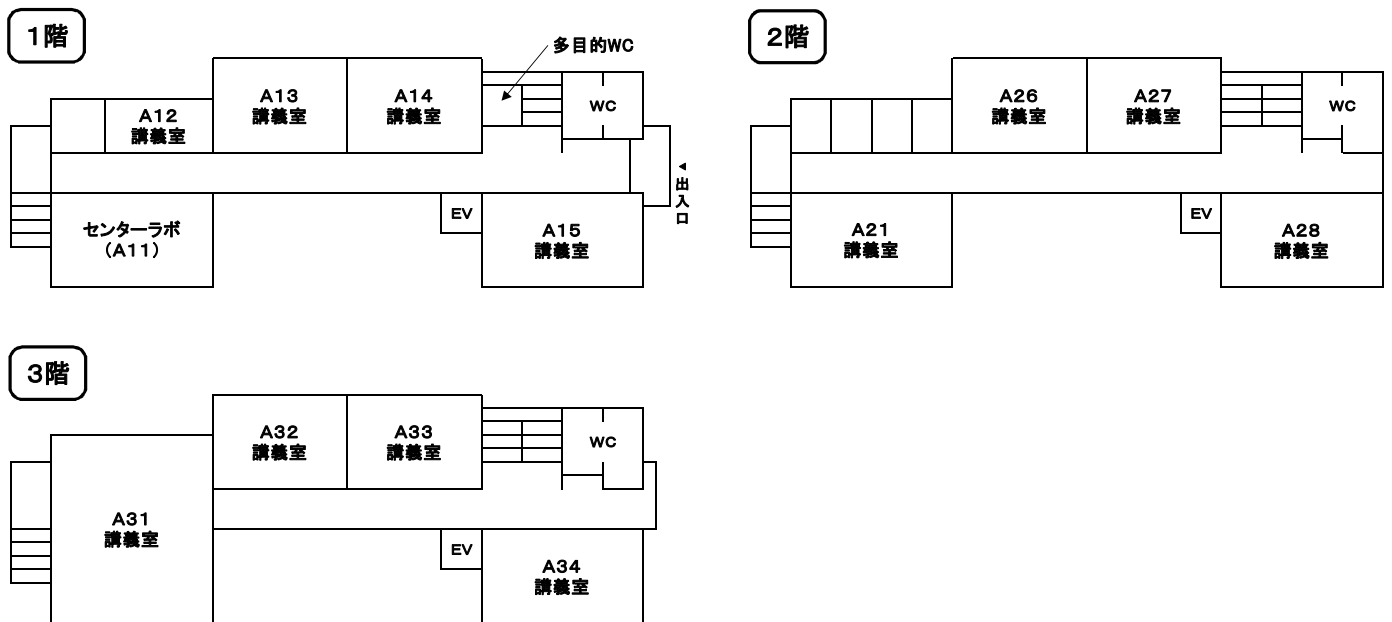
3階



4階



<全学教育棟A館>



教養教育院大地震対応マニュアル

『教養教育院では、年間を通して防災訓練を実施します』

近い将来、東海地方に大地震が発生した場合には、全学教育棟で授業を受けている2千人余りの学生が安全かつ迅速に屋外に避難することが必要となります。

教養教育院では、地震をはじめ、不意に発生する災害等に備え、非常時に学生や教職員が冷静かつ適切な判断や指示ができ、避難時の対応が安全かつ速やかにできることを目的に、年間を通して全学教育棟における防災訓練、避難・誘導訓練等を計画・実施しています。

この教養教育院における取り組みについてご理解いただき、訓練の実施にご協力願います。

教養教育院長

名古屋大学ポータルに緊急連絡用メールアドレスを登録してください！

名古屋大学安否確認システム

災害時には安否情報を大学へ伝えてください！
登録のメールアドレスに大学からメールが届きますので、案内に従って安否情報を入力してください。

教養教育院大地震対応マニュアル(全学教育棟)

《 名古屋大学緊急地震速報システム 》

東山キャンパスで**震度5弱以上が予想**されるときに、地震による強い揺れが起こる数十～数秒前に警報が発せられます。

緊急地震速報

放送メッセージが流れます。

- ・NHKチャイム音につづき、「**身の安全を確保してください。**」



緊急地震速報を聞いたら

強い揺れが起きるまでの時間は限られています。倒壊や破損しやすいものから離れるなど、身の安全を図るための最低限の行動を取ってください。

火を消す

出入り口の確保

安全姿勢

(講義室) 机・イスが床に固定されている場合は、イスに座ったまま机につかまる。
固定されていない場合は、とにかく頭を守る。
(階段) 踊り場へ出て安全姿勢。



地震発生せず

速報の後、しばらくしても地震が来ない場合は誤報の可能性もあるが、テレビ・ラジオ・インターネットなどで情報を集め、**正式な発表があるまで警戒を解かないでください。**



地震発生

『地震発生時初動マニュアル』

(次ページへ)

地震発生時 初動マニュアル(全学教育棟)

地震発生

① **まず、身を守る！**

バッグ、教科書などで落下物から頭を守り、揺れが収まるのを静かに待ってください。

② **非常脱出口の確保！**

余裕があれば、ドア付近にいる人は、出入り口の扉を開け通路を確保してください。

③ **素早く火の始末！**

実験中など火気を使っているときは、火を消す。薬品などから離れる。



地震発生後 1～2分（揺れが収まったら）

① **周囲の安全を確認！**

倒れた棚等の下敷きになっている人がいないかを確認してください。
けが人の有無を確認してください。

② **建物の状況を確認！**

建物が傾いていないか、壁にヒビが入ったり崩れたりしていないかなどを確認してください。

③ **作動中の実験器具等の停止！**

④ **火災の状況を確認！**

火災が起きた場合、自分の身が安全な範囲で、落ち着いて**初期消火**してください。



地震発生後 3分

① **隣接する部屋で助け合う！**

他の部屋・教室等で倒れた棚等の下敷きになっている人がいないか確認してください。

② **余震に注意！**

建物の状況により、余震で崩壊する恐れのある場合は、大学指定の避難場所（中央図書館西側グラウンド）に避難してください。

避難が必要な場合

建物の状況により、避難が必要と判断された場合は館内放送等により避難指示が出されますが、館内放送等が無くても状況により担当教員が避難することが必要と判断することもあります。

避 難

担当教員の指示に従い避難してください。
日頃、教室から非常口までのルートを確認しておいてください。

- ① 落ち着いて避難してください。
- ② 障がい者の優先避難を支援してください。
※ 車椅子を利用している障がい者の避難の方法など、
日頃から周りの人が意識していることが大切です。
- ③ 大きな荷物は所持しないで避難してください。
- ④ エレベーターの利用は禁止となります。
- ⑤ 避難の途中で立ち止まらないようにしてください。
- ⑥ 『おはしも』を実践してください。
おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない



確 認（教員が対応）

- ① 全員の教室退避を確認。
- ② 隣接する教室の避難状況を確認。
- ③ トイレの中を確認。

一次避難場所へ誘導（教員が対応）

一 時 待 機

- ① 屋外に出たら、指定の一次避難場所で待機してください。
- ② 安全が確認できるまで教室には戻らないでください。
- ③ 余震により外壁等が落下する恐れがありますので、建物から十分な距離を置いてください。
- ④ 大学からの案内・指示に従ってください。

名古屋大学東山地区配置図

